

医療ルネサンス

No7883



インフルエンザ

1 / 5

3年ぶりの流行に備える

「痛いのは嫌だけど、怖

いウイルスを防ぐためなら
仕方ないですね」。10月中

旬、東京都中野区のグルー

プホーム「Carina(カ

ルナ)中野丸山」で、イン

フルエンザワクチンを打っ

た80歳の女性は、こう言

って笑顔を見せた。

施設の集団接種の日で、

80〜90歳代の入居者15人

が、次々とインフルエンザ

の予防接種を受けた。全員、

7月に新型コロナウイルス

の4回目接種も済ませとい

て、11月中にも現在主流の

オミクロン株に対応したワ

クチンも打つ予定だ。

この施設では、新型コロナ

ナの流行後、外部業者を居

住区画に入れないようにす

るなど感染対策を強化し、

インフルエンザにかかる人

はゼロだった。

だが、今年は警戒感を強

めている。施設管理者の佐

藤光太さん(37)は「行動制

限が緩和され、インフルと

コロナが同時流行する可能

性があるとされている。

インフルでもコロナでも高

齢者がかかったら重症化し

やすいので、非常に心配し

ています」と話す。

この2年間、インフルエ

ンザは国内で流行しなかつ

た。マスク着用や行動制限

といった感染対策の強化が

奏功したとみられている。

だが、国の推計では、例

年は1000万人前後が感

染しているとされ、死者が

3000人を超える年もあ

る。本来、体力が低下した

高齢者にとっては命に関わ

る怖い病気の一つだ。

今年も、流行予測の目安

となる南半球の豪州でも、

8月までに昨年の約370

倍となる約22万人の感染が

報告された。流行したのは

A香港型というタイプだっ

たが、日本感染症学会は「わ

が国でも流行の主体になる

可能性がある。A香港型が

流行すると、死亡や入院が

増加することが知られてい

るので、警戒が必要」との

提言を公表している。

10月末現在、国内では流

宮崎などでは集団感染が発

生している。日々高齢者の

ケアに当たる佐藤さんは

「この2年余り、職員の感

染対策を徹底してきたが、

認知症の入居者の場合は個

室隔離やマスクの徹底も難

しい」と、感染者が発生し

た時の対策に頭を悩ませ

る。施設の嘱託医を務める

大場診療所の医師、渡辺仁

さんは「仮に感染者が出た

ら、被害の拡大を防ぐため

に、他の高齢者にも抗イン

フルエンザ薬を予防投与す

る可能性がある」と話す。

インフルエンザに詳しい

慶応大客員教授の菅谷憲夫

さんは「この2年流行しな

かったため、十分な免疫を

持たない人が増えている。

施設では接種が進んでいる

と思うが、自宅で過ごす高

齢者や子どもも含め、重

症化リスクが高い人たちは

特に接種を検討してほし

い」と呼びかけている。

(このシリーズは全5回)



グループホームの入居者にインフルエンザワクチンを接種する渡辺さん(東京都中野区で)



*過去記事はコミ
ドクターで